

単元名：投書の書き方をマスターしよう
「新聞の投書を読み比べよう」

単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領国語科第5学年及び第6学年、「C読むこと」の指導事項「ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたたりすること。」の内容を受けて設定したものである。

本単元では、教材文の新聞投書を読み比べ、読み取ったことを生かして投書を書くことを目的としている。また、学習指導要領の「C 読むこと」の言語活動例(2)「イ 自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。」を受け、「新聞の投書を読み比べて説得の工夫などを理解し、自分の考えを明確にして投書を書くこと」を単元を貫く言語活動として位置付け、投書を通して読み取ったことを基に自分の考えを明らかにすることのできる力を付けることをねらいとする。

新聞投書は出来事やテーマ、身近な問題などを取り上げ、考えたり感じたりしたことを述べた意見文である。投書の書き手は自分の考えや主張に説得力をもたせたり、多くの人から共感を得たりするために、文の構成を工夫し、根拠となる事実や資料を用いて理由付けを行う。

本教材は、「スポーツをすることの目的」について書かれた一つの投書につなげて寄せられた3つの投書を紹介したものである。4つの投書の文の構成は全て「話題提示」「筆者の意見や主張」「第一の理由や根拠」「第二の理由や根拠」「予想される反対意見に対する反論」「筆者の意見」のまとめとなっており、文章の構成は非常にとらえやすい。説得の工夫としては「経験を述べる」「具体的な数値を入れる」などの具体が示されているので、新聞投書を読んだり書いたりすることに適した教材と言える。そのため、本単元では教材文の投書を比較させ、筆者の主張や筆者の説得の工夫について読み取ったことを基に、自分の意見を投書の構成で書かせることにした。

- 本学級の児童は、第5学年の時に、教材「書き手の意図を考えながら新聞を読もう」において、「多摩川に100万匹のアユが遡上した」という事実をもとにして書かれた2つの記事の見出しやリード文、記事の本文、キャプション付きの写真を読み比べることを通して、書き手の意図の違いを捉える学習をしている。また第6学年では、「イースター島にはなぜ森林がないのか」においては筆者の考えの中心や根拠となる事実などを捉えながら読む学習をしている。しかし、全国学力・学習状況調査の国語科B③「目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫することができるかどうかをみる」の問題では、正答率が78.2%であった。授業の中でも、自分の考えを述べる場面では、児童の多くが本文の引用のみにとどまってしまい、自分の知識や経験、考えなどと関連付けて考えることに課題が見られた。また、文章の構成として、自分の考えとその考えに説得力をもたせるための事実との関係を学習しているが、本単元で学習する起承転結型の反対意見に対する反論を用いる構成の工夫についての学習は初めてである。

○課題を発見・解決する力

投書についての知識が不十分な児童が学級のほとんどであるため、投書との出合わせ方を工夫したい。特に投書が社会参加の方法の一つの手立てであることを理解させるようにする。また、投書の内容は児童にとって身近な話題やタイムリーな話題を取り上げ、投書に対する興味をもたせるようにする。そして、新聞投書で読み取ったことを生かしながら自分の意見を書かせる。その際に、より多くの人に自分の考えを発信していくことができることの良さに気づき、児童が進んで自ら投書を読んだり書いたりする意欲につなげたい。投書はある程度字数が制限され、意見や説得のための理由や根拠付けを簡潔にまとめなければならない。投書の特徴を読み取らせ、「投書の書き方のポイント」としてまとめ、それをういさせながら自分の考えをまとめ、友だちと交流することを学習のゴールとして設定する。さらに、児童の学習意欲の喚起や情報収集のために、投書を日常的に目にすることができるように新聞を集め、自由に手にすることができるように場を工夫する。

○深く考える力

本単元で育成したい思考の力は、自分の考えを明確にするために読み手を説得するための工夫について読み手を説得するための工夫について投書を読み比べる力である。

比較する力を付けさせるためには、4つの投書を読み比べ、筆者の取り上げる読み手を説得するために用いる理由付けや根拠の挙げ方の工夫に気付かせる。そして、自分の経験、見たり聞いたりしたこと、資料に基づく具体的な数値を用いること、有名な人の言葉を引用することの4つの工夫に気付かせ、それぞれの事実のよさや課題を表にまとめながら考えさせる。そして、投書の本来の目的である、より多くの人に自分の考えを伝え、共感してもらうために、最も必要な工夫を自分自身で考えて選ぶことができるようにしたい。

構成の工夫として特に取り上げるのは、予想される反対意見に対する反論を用いて自分の意見に説得力をもたせることである。4つの投書を読み比べ、どの投書も予想される反対意見に対する反論を用いていることに気付かせる。そして、反論があるものとないものを比較し、その効果を考えさせる。その際に、書き手の意見や根拠となる事実などを整理させ、構成表を用いて本文の構成に着目させ、投書の書き方で自分の考えを書く際の手掛かりにしたい。

○自己を理解する力

学びのモニタリングの時間に学習を振り返ることで、既習の学習内容だけでなく、投書を読むことで、より多くの人に自分の考えを理解してもらうための必要な工夫や物の見方考え方が広がったことを実感させる。友だちと完成した投書を交流することで、自分と友だちのもの見方や考え方の違いを知る楽しさや、自分のもの見方や考え方が広がることの良さに気付かせるようにしたい。

単元の目標及び内容について

- 自分の意見を伝えるための新聞投書の工夫について関心をもち、自分の考えを明らかにしながら進んで新聞投書を読もうとしている。 【関心・意欲・態度】
- 筆者の考えと説得力をもたせるための根拠との関係を押さえ、自分の考えを明確にするための筆者の工夫を読み取る。 【C読むこと ウ】
- 新聞投書の構成や書き方について理解する。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ（キ）】

単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
【単元を貫く言語活動】 新聞の投書を読み比べて学んだ説得の工夫などを使って、読み手に自分の考えが伝わるように文章の内容を工夫して投書を書く。		
自分の意見を説得させるための新聞投書の工夫について関心を持ち、自分の考えを明らかにしながら進んで新聞投書を読もうとしている。	筆者の考えと説得力をもたせるための根拠との関係を押さえ、自分の考えを明確にするための筆者の工夫を読み取る。	新聞記事の構成の特徴や書き方を理解している。 新聞記事の構成に着目して、記事を効果的に読んでいる。

指導と評価の計画

全 1 1 時間

次	時	学習内容	評価				
			関	読	言	評価規準	評価方法
一	1	課題の設定 (2) ○新聞投書から、投書の大まかな内容をつかみ、ゴールの見通しをもつ。 ・投書の書き方や説得の工夫を使って、教科書の新聞投書に対する意見を投書の書き方で書き、学年の友だち同士で意見を交流するという学習活動のイメージをもつ。	○			・説得力のある文の書き方に関心を持ち、学習のゴールについて考えようとしている。	ノート 行動観察
	2	○単元で付けたい力について考え、学習計画を立てる。 ・学習のゴールに向けて本単元で付けたい力やそのためにどのような学習活動を行うかを考える。	○			・説得力のある文を書くために付けたい力や学習の計画について考えようとしている。	ノート 行動観察
二	3	情報の収集 (3) ○新聞投書を読み比べ、共通点や相違点を比較させる。 ・説明文などの既習の学習と関連させて、文章の構成の工夫に着目する。		○		・投書の書き方の工夫に考えながら、投書を読み比べている。	ノート 行動観察
	4	○新聞投書を読み比べ、それぞれの投書について筆者の主張を捉え、構成や説得の工夫を「投書の書き方のポイント」にまとめる。 【構成表 話題提示、筆者の意見、理由となる事実、反対の意見の分類】 ・事実と筆者の主張を区別しながら、新聞投書の構成について考える。 ・筆者の主張に説得力をもたせるための構成の工夫について考える。		○	○	・事実と筆者の主張を区別しながら新聞投書を読み、説得のための工夫について読み取っている。 ・投書の構成や構成の効果を理解している。	構成表 行動観察

次	時	学習内容	評 価				
			関	読	言	評価規準	評価方法
二	5	<p>○新聞投書の事実を読み比べ、筆者の説得の工夫を考える。</p> <p>・新聞投書を読み比べ、構成表をもとに筆者の読み手を説得するための、根拠の挙げ方の工夫を見付け、表に整理しながら工夫の良さを考える。【本時】【構成表、表】</p>		○		・読み手を説得するための理由付けとなる根拠の挙げ方の工夫や工夫の良さを読み取っている。	ノート 行動観察
三	6	<p>整理・分析（3）</p> <p>○新聞投書に対する自分の主張や根拠をまとめることができる。</p> <p>・読み比べた投書の内容や、自分が収集してきた新聞投書をもとに、自分の主張や説得力をもたせる事実を構成表に整理する。【構成表】</p>		○		・自分の立場を明らかにしながら、書かれている意見について考えた事柄を整理している。	ワークシート 行動観察
	7	<p>○文章全体の構成を考えて下書きを書く。</p> <p>・読み手に自分の主な主張などを理解してもらうためにより説得力のある論の進め方や、字数などを確かめ、投書を書く見通しをもつ。【構成表】</p>		○		・事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらまとめている。	ワークシート 行動観察
	8	<p>○下書きを推敲する。</p> <p>・友だちの助言をもとに、書いた投書を読み直し、推敲する。</p>			○	・投書の構成の仕方に注意して推敲している。	ノート
	9	<p>まとめ・創造・表現（1）</p> <p>○下書きを清書する。</p> <p>・投書を清書し、仕上げる。</p>			○	・投書の構成の仕方に注意して清書している。	ノート
五	10	<p>振り返り（2）</p> <p>○完成した投書を交流し合い、学習の振り返りを行う。</p> <p>・投書を読み合い、自分と友だちのもの見方や考え方の違いを知り、作品を評価する。</p>		○		・自分の立場を明らかにし、筆者の考えと根拠を比較して読んでいる。	ノート 行動観察
	11	<p>学びのモニタリング</p> <p>○自らの学びや学び方を振り返る。</p> <p>・単元の初めに立てた「ゴールの見通し」の視点でノートや投書を基に自らの学びを振り返る。</p>	○			・自分のものの見方や考え方の変容や自らの学びや学び方を振り返っている。	ノート 行動観察

本時の学習

(1) 本時の目標

- 4つの新聞投書を読み比べ、筆者の主張に説得力をもたせるための工夫を読み取ることができる。

(2) 本時の評価規準

- 4つの新聞投書を読み比べ、筆者の主張に説得力をもたせるための根拠の挙げ方の工夫を読み取り、その工夫の良さや課題について考えている。 【読む能力】

(3) 本時の学習展開（5時間目／全12時間）

学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応 □思考の場の工夫	◇指導上の留意事項 ★めざす児童の姿 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準〔観点〕 (評価方法) ◎本時で付けたい力 ☆育成したい資質・能力
1 前時までの学習を振り返り、本時の課題を確認する。 めあて 4つの新聞投書を読み比べ、根拠の挙げ方に注目して、筆者の工夫のよさや課題を考えよう。	◇前時までの学習を想起させ、投書の構成における筆者の説得の工夫を確認する。	
本時のゴールの見通し A：筆者の工夫の良さと課題を考えて取り入れる工夫の仕方を考えている。 B：事実や資料の挙げ方から、筆者の工夫の良さと課題を考えている。		
2 読み手を説得するための事実として取り上げている事柄について考える。 ○4つの新聞投書では、どのように工夫して事実を用いていますか。 ・自分の体験 ・見たり聞いたりしたこと ・資料に基づく具体的な数値 ・有名な人の言葉 3 読み取った説得の工夫の良さや課題を考える。 ○それぞれの工夫の良さや課題を考えましょう。 ・自分も似た経験があつて分かりやすい ・似た経験がない人には分かりにくい ・数値を使った資料を用いると多くの人に納得できる。	◇4つの新聞投書のそれぞれ事実を比較させ、理由付けの仕方や根拠の挙げ方の工夫を確認させる。 ◆4つの投書を同時に比較することが難しい児童には、投書①とそれぞれの投書を順に比較させたり、説得の工夫が入ってない場合とを比較させたりして違いに着目させる。 ◇納得する投書を選ばせ、その理由をまとめさせることで、主観的情報に基づく事実と客観的事実に基づく根拠の挙げ方の良さや課題について考えさせる。 ◇それぞれの事実を用いることには良さや課題があることに気付かせる。 ◆誰にでもあてはまるものか一部の人のみあてはまるものなのかという視点を与えて考えさせる。	☆投書を読み比べ、目的や意図に応じて筆者の考えを明確にするために必要な、読み手を説得するための工夫について考えている。
□思考の場の工夫 比較する それぞれの投書の説得力をもたせる事実や資料の工夫の良さと課題を表に整理させながら考えをまとめる。		

<p>学習活動</p> <p>○主な発問</p> <p>・予想される児童の反応</p> <p>□思考の場の工夫</p>	<p>◇指導上の留意事項</p> <p>★めざす児童の姿</p> <p>◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て</p>	<p>評価規準〔観点〕</p> <p>(評価方法)</p> <p>◎本時で付けたい力</p> <p>☆育成したい資質・能力</p>
<p>4 全体で交流する。</p> <p>○新聞投書の目的を考えて、自分が使うならどの工夫を使うか考え、2つ選びましょう。</p> <p>・1つ目と2つ目の投書は分かりやすいが当てはまらない人も多いかもしい。</p> <p>・3つ目と4つ目の投書は少し自分たちから遠い情報が多くの人に納得がいく情報である。</p> <p>5 本時の学習をまとめる。</p> <p>○新聞投書の目的を考えて、投書の工夫を用いて書くときにはどの工夫を用いるのがいいでしょうか。またその理由も考えましょう。</p>	<p>◇それぞれの事実を用いる時の良さや課題を補うためにどの事実を選べばよいか考えさせる。</p> <p>◇自分が投書に用いる場合、どの工夫がより納得できるかを交流させることで、投書本来の目的であるより多くの人に伝えるという目に向けさせる。</p> <p>◆グループワークの中で出てきた良さや課題をもとに課題を解決するためにどのように工夫を入れていけばよいか考えさせる。</p> <p>◇それぞれの投書の書き方の工夫には良さや課題があり、それを理解した上で、目的や発信相手に応じて使い分けることが重要であることに気付かせる。</p>	<p>◎投書を読み比べ、筆者の主張と根拠の挙げ方の工夫を読み取っている。〔読む能力〕(ノート・行動観察)</p>
<p>★めざす児童の姿 (根拠となる事実や資料の使った工夫の良さや課題について書いていけばよい。)</p> <p>4つの投書は経験したことや見たり聞いたりしたことといった一部の人にしか伝わらないが分かりやすい事実と、資料に基づく具体的な数値や有名な人の言葉を引用するといった多くの人に伝わるが少し難しい事実とによって分けられる。</p> <p>今回は新聞投書でより多くの人に納得をしてもらうために、多くの人に当てはまる事実を使っている投書の3や4の工夫を用いなければならない。</p>		<p>◆まとめることが難しい児童には、それぞれの投書で説得力をもたせるための事実の工夫をヒントとしてキーワードで示す。</p> <p>◇次時は教科書の新聞投書を例に、話題に対する筆者の主張や事実をまとめることを伝える。</p>

(4) 板書計画

多くの人に納得 ←

めあて 4つの新聞投書を読み比べ、事実に注目して、筆者の工夫のよさや課題を考えよう。

投書の書き方をマスターしよう
「新聞の投書を読み比べよう」

A 筆者の工夫の良さと課題を考えて取り入れる工夫の仕方を考えることができる。
B 事実や資料の挙げ方から、筆者の工夫の良さと課題を考えることができる。

<p style="text-align: center;">良さ</p> <p>投書①自分の体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分も似た経験があつて納得 ・分かりやすい <p>投書②見たり聞いたりしたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見たり聞いたことがあり納得 <p>投書③資料にもとづく数値</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの人が納得 ・信頼できる <p>投書④有名な人の言葉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの人が納得 	<p style="text-align: center;">課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・似た経験ない人がいるかも ・説得力は△ ・見たり聞いたことがない人には分かりにくい ・一部 ・少し分かりにくい ・経験等の方が分かりやすい ・当てはまらない人もいるのでは？
--	---

→ 身近

まとめ 四つの投書は経験したことや見たり聞いたりしたことといった一部の人にしか伝わらないが分かりやすい事実と、資料に基づく具体的な数値や有名な人の言葉を引用するといった多くの人に伝わるが少し難しい事実とによって分けられる。

今回は新聞投書でより多くの人に納得をしてもらうために、多くの人に当てはまる事実を使っている投書の3や4の工夫を用いなければならない。

学びのモニタリング

海田東小 学びのモニタリング 六年組

投書の書き方をマスターしよう
「新聞の投書を読み比べよう」

主体性・・・進んで取り組む力
読み手を説得することができる投書を書くために、進んで投書を読み、情報を集めた。(A・B・C)

思考力・・・しつかり考える力
四つの投書を読み比べ、自分の考えを明確にするために必要な説得の工夫について考えることができた。(A・B・C)

自己理解・・・自分の考えの良さに気付く力
自分の考えを理解してもらうために必要な工夫について気付いたことや学習したことで今後の生活に活かしたいことを書きましよう。